

調布教会 教会学校 週報

2025年度 みことば

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」
ヨハネによる福音書3章16aより



きょうかいがっこうれいはい
教会学校礼拝プログラム

2025年 12月7日

ぜん そう
前 奏
*賛 美
お祈り

「主を待ち望むアドヴェント」こどもさんびか改定版65

天の父なる神よ、御名を賛美します。このせわしない世界にイエスさまを遣わしてくださり
感謝します。私たちに、変えられないものを受け入れる力、変えられるものを変えていく
勇気、そして変えられないものと変えられるものを見分ける知恵を与えてください。この世界を
あなたの御心に 従って生きていくことができますように。私たちが皆の救い主イエスのお名前を
通して祈ります。アーメン

せい しょ
聖 書

ローマの信徒への手紙12章9～21節 【日本聖書協会共同訳】 (新約聖書286ページ)

こうどくしへん
交読詩編
説 教

リタニー

「キリスト者に求められる知恵と犠牲」

キリストを信じて生きるとはどういうことなのでしょうか。なにをすればよいのでしょうか。なにを目指せばよいのでしょうか。ローマの信徒への手紙はパウロが西暦50年代に書いた手紙です。約2000年も前にパウロによって書かれたこの手紙は、今こうして私たちのもとにも届き、私たちに直接語りかけています。この2000年の間に私たちを取り巻く社会と技術は大きく変化しましたが、人間の性質が変わったわけではありません。昔の人たちも私たちと同じ心を持っていたし、私たちは昔の人々と同じ過ちを日々おかしつづけています。昔も今も、変えられないものと変えられるものを区別するための知恵が私たちキリスト者には求められています。これは教科書で学べる知恵ではありません。もっと重要な知恵なのです。そしてキリスト者には、「変えていく」勇気が必要なのです。アドヴェントのこの時期に、ちょっと立ち止まって、キリストを信じることについて考えてみましょう。

あんしやうせいぐ
暗唱聖句

「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。」ローマの信徒への手紙12章15節

もくそう
黙想タイム

*賛 美

「きけ、あれのから」讃美歌21-237

けんきんとかんしやくのお祈り 24-1

*主の祈り

天にまします我らの父よ。願わくは御名をあがめさせたまえ。御国を来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我
らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。
我らを試みにあわせず、悪より救い いただいたまえ。
国と力と栄えとは、限りなく なんじのものなればなり。アーメン

お知らせ

- ・アドベント第2週目に入りました。クリスマスにイエスさまをお迎えする準備をしましょう。
- ・分級ではページェントの練習があります。
- ・次週は、教会学校のクリスマスです。午後2時からリハーサル、3時から5時まで本番です。

*賛 美

36 いまでかけよう

*祝 福 八木浩史牧師

*後 奏

9愛には偽り^{いつわ}があつてはなりません。悪^{あく}を退^{しりぞ}け、善^{ぜん}に親^{した}しみ、10兄弟愛^{きょうだいあい}をもつて互^{たが}いに深^{ふか}く愛^{あい}し、互^{たが}いに相^あ手^てを尊^{そんけい}敬^{けい}し、11怠^{おこた}らず励^{はげ}み、霊^{れい}に燃^もえて、主^{しゅ}に仕^{つか}えなさい。12希^き望^{ぼう}をもつて喜^{よろこ}び、苦^く難^{なん}に耐^たえ、たゆま^いず祈^{いの}り、13聖^{せい}なる者^{もの}たち^{ひと}に必要^{ひつよう}な^わもの^{たびごと}を分^わかち、旅^{たび}人^{びと}をもてな^{つと}すよう努^{つと}めなさい。14あな^{はくがい}た^{もの}が^{しゅくふく}た^{しゅくふく}を迫^{はくがい}害^{もの}する者^{しゅくふく}を祝^{しゅくふく}福^{ふく}しなさい。祝^{しゅくふく}福^{ふく}する^{のろ}のであつて、呪^{のろ}つてはなりません。15喜^{よろこ}ぶ者^{もの}と共^{とも}に喜^{よろこ}び、泣^なく者^{もの}と共^{とも}に泣^なきなさい。16互^{たが}いに思^{おも}い^{ひと}を一つ^{たか}にし、高^みぶらず、身^み分^{ぶん}の低^{ひく}い人^{ひと}々^{びと}と交^{まじ}わりなさい。自^じ分^{ぶん}を賢^{かしこ}い者^{もの}と思^{おも}つてはなりません。17誰^{だれ}にも悪^{あく}をもつて悪^{あく}に報^{むく}いること^{ひと}なく、すべ^まて^えの^{ぜん}人^{おこな}の前^{こころ}で善^よを行^なうよう心^{こころ}がけなさい。18でき^はれば、せ^めてあな^はた^がは、すべ^ひて^{へい}の^わ人^すと平^{へい}和^わに過^すごしなさい。19愛^{あい}する人^{ひと}たち、自^じ分^{ぶん}で復^{ふく}讐^{しゅう}せず、神^{かみ}の怒^{いか}りに任^{まか}せなさい。「『復^{ふく}讐^{しゅう}は私^{わたし}のす^{こと}と、私^{わたし}が報^{ほう}復^{ふく}する』と主^{しゅ}は言^いわ^かれる」と書^かいてあ^りま^す。20「あな^はた^がの敵^{てき}が飢^うえていた^ら食^たべ^させ、渴^{かわ}いていた^ら飲^のませよ。そ^うす^べば、燃^もえる炭^{すみ}火^びを彼^{かれ}の頭^{あたま}に積^つむこと^になる。」21悪^{あく}に負^まけること^{なく}、善^{ぜん}をもつて悪^{あく}に勝^かちなさい。

<さんび>

主を待ち望むアドヴェント

1. しゅをま^ちのぞむアドヴェント ^{せいしよ}のろうそくともそう
しゅがみ^ちをそ^なえ^られた ^{このとき}をま^もろう
* (くりかえし) しゅのた^みよ、よ^ろこ^べ しゅはち^いか^い
2. しゅをま^ちのぞむアドヴェント ^{だい2}のろうそくともそう
しゅがな^されたそ^のよう^に た^がい^にた^すけ^{よう} *
3. しゅをま^ちのぞむアドヴェント ^{だい3}のろうそくともそう
しゅのめ^ぐみ^てり^かが^やき ^{くら}や^みを^てら^す *
4. しゅをま^ちのぞむアドヴェント ^{だい4}のろうそくともそう
しゅはこ^のよ^にき^たり^たもう ^{こころ}こ^めう^たお^う



きけ、あれのから

(讃美歌21-237)

- 1 きけ、あれのからとどくこえを。
「みちをそ^なえ^よ、しゅがこ^られる。
た^にま^はた^かく、お^かは^ひく^く、
で^こぼ^この^みち^は た^いら^にな^れ」
- 2 みよ、く^さば^なは か^れて^しぼ^む。
ひ^とは^みな^くさ、の^にさ^くは^な。
こ^のよ^のさ^かえ ^{ゆめ}と^きえ^る。
み^かみ^のこ^とば^は と^こし^えま^で。
- 3 よいお^とず^れを つ^たえ^るもの、
や^まや^まを^ゆき、こ^えを^あげ^よ。
「よ^ろこ^びう^たえ、シ^オンの^たみ、
お^おな^るみ^かみ^が い^まこ^られる」
- 4 しゅはく^にぐ^にの あ^いだ^にた^ち、
あ^くを^ただ^して お^さめ^られる。
ひ^つじ^かい^なる しゅ^はわ^れら^を
へ^いわ^のま^きば^に と^もな^われる。

